



最新のMRI使い精度向上 県内民間施設で初めて導入

荒木脳神経外科

医療法人光臨会
の荒木脳神経外科
病院（西区庚午北
2丁目8-7、荒
木政理事長）は県
内の民間施設で初
めて、最新型の磁
気共鳴画像装置（M
RI）3・0テス
ラを導入し、4月
から稼働する。脳
内の精細な画像の
撮影ができるよう
になり、脳卒中な
どの診断の精度向
上と検査時間の短
縮による患者の負
担軽減を図る。

広島大学病院、
県立病院、市立
総合リハビリセ
ンターに加えて
4施設目。

同装置はオランダのフィリップス社製で、縦横各2・1×奥行き1・6メートル。磁力が従来機器より強力になり、0・35ミリメートルまでの微細な血管状態も映し出せる。脳腫瘍や脳梗塞の発生箇所を、より正確に確認。早期発見、早期治療を促す。同病院は救急車の搬入が年間2000件程度あり、今後は従来のMRI1・5と3・0テスラの2台で救急搬入の受け入れ体制を整え、より多くの患者に対応する。10年4月、元カープ選手で読売ジャイアンツの木村拓也、コーチがくも膜下出血で死去したのを受け、民間レベルで予防診療に対する認識が高まっていることから、脳ドックも実施し、救急・予防にも対象窓口を広げる。厚生労働省によると現在、全国の脳血管疾患の総患者数は約137万人とされており、予防診療で重症化を避け、患者の医療費負担の軽減にもつなげる考えだ。

近隣のクリニックなどに装置を開

放し、共同利用も行っている。例えば、地域のクリニックで高額医療機器検査が必要になった場合、同病院の最新機器を利用して撮影後、全国で契約している放射線科専門医に解析・診断してもらい、診断書を付けて依頼のあったクリニックに返信する。放射線科専門医が不足する中、全国の専門医に診断の協力を求める。高度な医療機器を共有し、デジタル化により各専門医と連携することで、地域医療への貢献に役立てる。